

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名

倉吉西高等学校

重点項目	探究学習	提出日	令和5年4月21日
------	------	-----	-----------

1 学校目標	
校訓である「立志」の精神に基づき、自らの志（使命感）を明確に持ち、将来、地域貢献及び社会貢献のできる心豊かな人材を育成する。	
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
<ul style="list-style-type: none"> 課題解決のプロセスを経験することで、困難な状況を切り拓く力を身につけるとともに、SDGsとの関係性を把握し、より良い地域社会の形成者としての自覚を育む。 大学や他校交流をとおして改善点を見出し、将来における学びの手法を獲得する。 <p><数値目標></p> <ul style="list-style-type: none"> チャレンジグループ活動等の探究活動によって、「学び」の視野が広がったと感じる生徒の割合が9割以上。 シンポジウムへの参加や論文投稿する生徒が10グループ以上。 学校外での交流事業等に参加する生徒が全体の5割以上。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジグループ活動を通して、地域や地元大学との連携が進み、課題解決に向けて地元自治体や地元大学の協力を仰ぎながら積極的に探究を行い、課題に対して多面的に考察するなど視野を広げることができた。 大学や他校交流に限らず校外でのイベントやシンポジウムにも参加し、探究内容を発表することで課題解決へのさらなる糸口や改善点を考える生徒が増加した。 <p><数値結果></p> <p>○チャレンジグループ活動等の探究活動によって、「学び」の視野が広がったと感じる生徒の割合 1年生 100% 2年生 97% (チャレンジグループ活動生徒アンケートより)</p> <p>○シンポジウムへの参加や論文投稿する生徒 10月 日本女性会議2022 in 倉吉 ・全校生徒が参加 ・2年生チャレンジグループ6班中4班が発表 10月 高校生議会 1班(人)参加 12月 中部ハイスクールフォーラム ・2年生チャレンジグループ6班中1班が発表 計6グループ</p> <p>○学校外での交流事業等に参加する生徒 1、2年生はフィールドワークでの大学生との交流や中高連携による中学生への学習支援ボランティア参加、日本女性会議参加により学校や世代を超えた交流により、全校生徒(10割)が地域の企業や学校・団体等と交流を持った。</p>

3 実施事業

【高等学校課事業】

■外部人材活用事業

- ・「社会人講師活用事業」「県立高校・大学教員交流事業」
チャレンジグループ活動の専門分野における研究内容を学ぶ。
→コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

■ふるさとキャリア教育充実事業（キャリア塾）

- ・「教えて先輩」
チャレンジグループ活動の1つのグループが地元企業を訪問し、地元で働くことの意義や地域貢献について学ぶ。
→コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

■新しい学びの創造事業

- ・「生徒の思考力・判断力・表現力の強化のためのハイレベル講座」
既存の枠にとらわれない先端の知見やアイデアの創造についての講演会。
→コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

【独自事業】

■地域連携・貢献活動推進事業

- ・「フィールドワーク事業」
「倉吉」「中部」「鳥取」でフィールドワークを実施し、地元の魅力及び課題を発見。
 - 1 令和4年10月20日(木)
1年生はフィールドワークイン鳥取で、鳥取県内の企業や施設の方からご指導いただき、地元について学び直しができた。
 - 2 令和4年10月11日(火)～10月13日(木)
2年生はフィールドワークイン山陰で、山陰地方の企業や施設、大学にそれぞれの志望に合わせて訪問し、地元への理解を深め、地元の魅力の再発見につなげた。
- ・「地元大学・近隣大学における学校独自オープンキャンパス」「地元大学・近隣大学研究室訪問」
鳥取大学、公立鳥取環境大学、島根大学で独自のオープンキャンパスを開催し、大学での研究を理解するとともに、希望者が研究室を訪問し、専門分野、領域に係る指導助言を得た。
令和4年7月21日(木) 鳥取大学オープンキャンパス(鳥取キャンパス) 3年生16名参加
令和4年7月22日(金) 公立鳥取環境大学オープンキャンパス 3年生3名・2年生3名参加
令和4年9月 1日(木) 2年生対象に、独自の鳥取大学オープンキャンパスを実施。119名参加。

■学びの深化実践事業

- ・「探究活動に係る他校交流事業」
探究活動に力を入れ先進的な取組を進めている県外高校との交流により、更なる研究の掘り下げに繋げる。
→コロナウイルス感染症対策により実施できなかった。

4 総合所見（成果・評価）

- ・本校教育活動の軸のひとつ、チャレンジグループ活動を通して課題解決に対する姿勢や視点を育むため、10年以上に渡り積み上げてきた地域や地元大学との連携の成果もあり、多くの協力を仰ぎながら課題解決に向けて生徒が積極的に探究を行い、多面的に考察することや視野を広げることができた。
- ・数値目標における「学び」の視野が広がったと感じる生徒の割合及び学校外での交流事業等に参加する生徒は、達成することができたが、シンポジウムへの参加や論文投稿する生徒については、全生徒が参加することができたが発表や投稿については、発表者数の制限やコロナ感染状況による制限により10グループという数値目標を達成できなかった。次年度は、地域自治体や団体との連携をさらに発展させ、チャレンジグループ活動での探究による学びを深めた上で地域への提言や提案をすることを目標に指導を行う。
- ・コロナウイルス感染症の状況などから、県外での研修や県外の生徒、学生との交流が難しく、地元密着型のフィールドワークや交流事業が中心となったが、改めて地元企業や学校、施設などを訪問する機会が得られたことで、地元への意識や、その魅力を実感することができ、将来地元を支える人財の育成という点においては収穫の多い取り組みとなった。

※枚数任意